



セルバンテス文化センター東京 新館長から、スペイン語を学ぶ皆さんへ



ビクトル・ウガルテ / Víctor Ugarte

セルバンテス文化センター東京館長
1963年バレンシア生まれ。2006年セルバンテス文化センター東京の初代館長に任命される。2012年9月より同機関シドニーセンターの館長を務めた後、2017年9月より再び東京センターの館長に就任。

「Decíamos ayer…(昨日話しましたように……)」5年前、東京からシドニーへ旅立ち、再び日本の地へ戻って参りました。こうしてスペイン情報誌「acueducto」、同誌編集長の坂東先生をはじめ、旧知の友と再会できることは大変な喜びであります。

セルバンテス文化センター東京に赴任した最初の5年間は、日本でスペイン語やスペイン語圏の文化との架け橋を築くという、かねてから望んでいたプロジェクトの始まりでした。今、スペイン語の話者人口は6億人近くに上り、母語としては英語を抜き、中国語に次いで2番目に多く話されている言語です。

日本人のスペイン語に対する興味は昔からあったもので、東京外国語大学に日本で初めてスペイン語専攻課程が誕生してからもうすぐ120周年を迎えることがこれを裏付けており、現在では各地に同専攻を持つ大学が存在します。スペイン語学習の動機として、文化は大変重要な入口です。実際に日本人のスペイン語話者の多くは、スペイン芸術に対する興味からミゲル・デ・セルバンテスの言語を学びました。ゴヤやダリ、ガウディ、そして来年日本で展覧会が行われるベラス

ケスへの関心からです。

また、フラメンコをはじめ、音楽やダンス、近年ではサッカーへの関心がスペイン語学習の誘因となってきました。今日、非常に多くの日本人がスポーツをきっかけにスペイン語を学んでいるため、2020年東京オリンピックがスペイン語話者と日本人々との距離を縮める貴重な機会になることは間違いありません。スペイン語圏の各国代表を受け入れる市町村では、3つの大陸にまたがり、多文化と多様性が共存するスペイン語圏コミュニティに対する関心がさらに高まることでしょう。

これまでに述べた文化やスポーツへの関心に加え、旅行に対する日本人の情熱は間違いなく私たちの言語を学ぶ最大の動機となっています。スペインと日本を結ぶイベリア航空の直行便が就航を再開したことは、大変喜ばしいことです。スペイン語学習者にとって、東京で飛行機に搭乗した瞬間から日本語とスペイン語で接客を受け、どうやってガスパチョリオハワインを頼むかスペイン語で練習しながら旅行をスタートできるのは嬉しいことに違いありません。また、この新しいイベリア航空のフライトは、アラスカからティ

エラ・デル・フエゴまで、アメリカ大陸にあるスペイン語圏諸国へとつなぐ架け橋でもあります。あえて、アラスカと申し上げたのは、アメリカ合衆国はすでにほぼ6千万人のスペイン語話者を抱え、メキシコに次いで、世界で2番目にスペイン語話者人口を持つ国であるからです。アメリカ合衆国では今日、スペイン語のウェブサイトや広告、コミュニケーションなしで企業活動を行うことは考えられません。この事実は私たちの言語であるスペイン語の経済価値に大きな可能性を与え、ビジネスチャンスをもたらすものです。

このテクノロジーの時代、完璧とはいかないまでも文章の自動翻訳が可能となり、近い将来には機械が私たちの言葉をほぼ同時に翻訳できるようになると言われています。しかし、日本の皆さんにはこれらのツールの誘惑に負けないでいただきたいと思います。コミュニケーションは、単なる言葉の伝達ではなく、人と人との交流ですから、お互いの文化や違いを楽しむためにも、人間関係や友情、相手の文化への興味が、言語を学ぶ原動力になるべきだと考えます。ぜひ皆さんにスペイン語を学んでいただきたいと思います。

水彩画だより

スペインの風景に魅せられて vol.2

スペインの各地を旅するとき、世界遺産、バラドール、白い家と花通りなど、多くの場所で個性的で美しい景色に遭遇し感動します。その思い出を水彩画で楽しく表現しました。

Mojácar

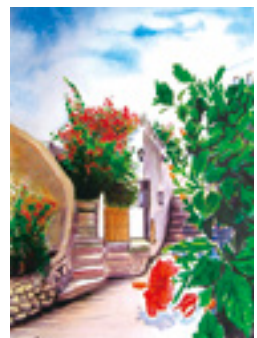
白壁の家と花の通り—花のある街角

スペイン全国を旅するとき、どの町、どの村でも花を飾り、住民はお互いを癒しあい、旅人の心をなごませてくれます。特にアンダルシアのカサ・ブランカ(白壁の家)の村々では、心を込めたもてなしの花々を楽しめます。

絵を描いたモハカルはアルメリア県の東部にあります。小高い丘の町には美しい花で飾った家が多く、旅人を歓迎しています。



Mojácar,
Provincia : Almería
アルメリア県モハカル



〈左〉花のある街 〈右上〉ハイビスカスの咲く街角 〈右下〉花で飾る石壁



牧瀬貢 / Mitsugu Makise

一般社団法人横浜スペイン語センター 前理事長。横浜市戸塚区在住。1961年、ブリヂストン横浜工場にエンジニアとして転勤、ここを拠点に数多くの国内・海外経験を積む。ドイツ、カナダ、米、イギリス、スペインに駐在。短期的な出張を含め世界100ヶ国を経験。とりわけ、最後の駐在地スペインの風土、国柄に惚れ込み、北部バスク・ビルバオに駐在、休暇中に17州51県をくまなく廻り、また定年後、思い出の場所での絵画制作を楽しむ。